



喜多登

亥の子餅

旧暦十月(亥の月・現在の十一月)の亥の日の亥の刻(午後十時頃)に食べる風習のある亥の子餅。少なくとも貞観年間(九世紀中頃)からある日本古来の和菓子です。

そんな亥の子餅の由来には諸説ありますが、そのうちの一つに、古事記、日本書紀にもある「菟餓野の誓狩」に由縁するものがあります。

古墳時代の第十五代天皇、**応神天皇**さまを亡き者にしようと企んだ、**麿坂王**、**忍熊王**が、戦いを挑む前に、菟餓野の地で、狩りをして良い獣が取れるかどうかで戦の吉凶を占う事にしました。しかし結果は、出てきたイノシシに**麿坂王**が殺されるといふ大凶で、結果、忍熊王も敗れて、**応神天皇**が勝利しました。

この事で、イノシシに命を助けられたと感じた**応神天皇**は、毎年亥の月亥の日に木代村、**畑村**、**大円村**の三村(現在の**大阪府豊能町**)から吉例として供御を行うようにと命じた事が、亥の子餅の由縁と豊能町では伝えられています。

この誓狩が行われた菟餓野の地については、亥の子餅の由来をみる限りでは豊能町となつていますが、菟餓野の地とされる場所は古来より諸説あり、豊能町や兵庫県、そして、この**梅田**も比定地とされています。特に**梅田**は当時の地勢から考えると、菟餓野の地の最有力候補といわれており、誓狩のイノシシの話は古代の**梅田**であった可能性が高いといえます。

亥の子餅そのものは、豊能町の歴史の中で培われてきたものですので、それはそれとして大切にしなければならぬ文化ですが、その由縁を考えますと、**古代梅田**にもゆかりを感じるお菓子といえなくはなさそうです。

ちなみに、この亥の子の日はコタツを出す日とされており、いよいよ冬がやってくる時期とされます。今年の子の日は、十一月廿日(亥)は十二月二日、三の亥は十二月十四日です。これらの日に風邪をひかないように、亥の子餅を食べることで滋養をつけて、これからの冬も元気に過ごしましょう。

今月の暦

【祭日】新嘗祭(廿三日)：新穀感謝のお祭り

【節気】立冬(七日)：季節が冬となる頃

小雪(廿二日)：僅かに雪が降り始める頃

【雑節】七五三(十五日)：子供の成長を祈念する

亥の子(廿日(旧暦十月初亥日))：コタツを出す日

酉の市(六日他(十一月中の酉の日))：武運長久

【大安】十一月三日、九日、十五日、十九日、廿五日

【祝日】文化の日(三日)、勤労感謝の日(廿三日)

御本社 本殿・稲荷社雨漏被害について

先月、台風二十一号が至るところに被害をもたらしましたが、当宮御本社においても本殿と、末社の**稲荷社**に雨漏り被害を引き起こしました。本殿については先月の長雨によって、天井の染みが見られるなど、雨漏りの気配がありましたが、台風のもたらす大雨により、とうとう霽が床下に落ちるなど顕在化してまいりました。

稲荷社については、社殿の老朽化が目立ってきてはいたものの、台風前までは大きな被害もありませんでしたが、台風時には至る所から雨漏りが発生し、恐らく瓦屋根が風などでゆがんだものと思われまふ。

本殿は築六十年を経過し、稲荷社も既に築五十年を経過し、いよいよ屋根の葺き替えなども視野にいれていかねばならなくなりました。

しかし、本殿の屋根に用いている銅板の価格は近年高騰を続けており、また職人の数が激減した事も加わり、工事費はとも神社では賸いされない金額になるものと予想されておりまふ。

現在、屋根の状態、また天井の状態を調査して頂いておりますが、工事費如何を問わず近々に修繕にかななければならぬ状態である為、神社維持において大変な状況となっております。今後、状況を取り纏め、被害金額、補修金額が判明いたしましたら、改めて氏子崇敬者の皆さまには赤誠のお支えをお願い致したく、先ず以って現状をご報告申し上げる次第です。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

